

# 緑崇流吟道緑水吟詠会 テキスト 目次

吟剣青一 吟剣幼少

作譜者 宗家 箕輪緑崇

府一決=府連一部決勝

愛連吟題★

竹外=藤井竹外大会

課題詩の期限=H29~R2有効

吟剣詩舞振興会アクセント漢詩集(ハ'シ')  
○=1部.  
☆=2部

ページ	吟題	作者	起句	吟題呼び	作者呼び	作者	絶句編	続絶句編	律詩古詩編	府連吟題
1	日本刀	大鳥圭介	鍛冶研磨す	に	お	日本		64		
2	黄鶴楼送孟浩然之廣陵	李白	故人西のかた	こ	り	中国	121			
3	漢江	杜牧	溶溶漾漾として	か	と	中国		152		
4	富嶽	乃木希典	峻嶒たる富嶽	ふ	の	日本	92			
5	易水送別	駱賓王	此地燕丹に別る	え	ら	中国	103			
6	新正口号	武田信玄	淑気未だ融せず	し	た	日本	30			
7	照鏡見白髪	張九齡	宿昔青雲の志	か	ち	中国	106			
8	泉岳寺	坂井虎山	山嶽崩すべし	せ	さ	日本	58			
9	九月十五夜	菅原道真	黄菱の顔色	く	す	日本			29	☆☆
10	帰省	狄仁傑	幾度か天涯白雲	き	て	中国			178	
11	四海波	本宮三香	四海波恬にして	し	も	日本	なし			
12	寶船	藤野君山	寿海波平かにし	た	ふ	日本		87		
13	名槍日本号	松口月城	美酒元来	め	ま	日本		102		
14	追悼詞	安達漢城	人生は夢の如く	つ	あ	日本		93		
15	絶句(江碧にして)	杜甫	江碧にして	せ	と	中国	126			
16	船到由良港	吉村寅太郎	首を回らせば	ふ	よ	日本	87			
17	題長安主人壁	張謂	世人交りを	ち	ち	中国		143		
18	河内路上	菊池溪琴	南朝の古木	か	き	日本	56			
19	涼州詞	王翰	葡萄の美酒	り	お	中国	107			
20	題太田道灌借蓑図	作者不詳	孤鞍雨を	お	さ	日本	64			○
21	別董大	高適	十里黄雲	と	こ	中国		137		
22	八幡公	頼山陽	結髪軍に従うて	は	ら	日本		47		
23	山中與幽人对酌	李白	両人对酌山花	さ	り	中国	124			
24	擬古	河野鉄兜	子を生まば当に	い	こ	日本		65		
25	探春	戴益	盡日春を尋ねて	は	た	中国		161		
26	余生	良寛	雨晴れ雲晴れて	よ	り	日本		41		
27	送元二使安西	王維	渭城の朝雨	け	お	中国	111			
28	惜花	福沢諭吉	半生の行路	は	ふ	日本		71		
29	左遷至藍関示姪孫湘	韓愈	一封の朝に奏す	さ	か	中国			226	
30	春行寄興	李華	宜陽城下	し	り	中国		125		
31	春流	北条時頼	春流岸よりも	し	ほ	日本		28		
32	獄中作	頼鴨涯	雲を排し手ずか	こ	ら	日本			97	
33	題烏江亭	杜牧	勝敗は兵家も	う	と	中国	141			
34	勸学	木戸孝允	驚馬遅しと	か	き	日本	83			
35	望廬山瀑布	李白	日は香炉を照ら	ろ	り	中国		136		
36	弘道館賞梅花	徳川景山	弘道館中千樹の	こ	と	日本	59			
37	謫居作(獄中有感)	西郷南洲	朝に恩遇を蒙り	た	さ	日本			109	☆☆
38	楓橋夜泊	張継	月落ち烏啼いて	ふ	ち	中国	128			
39	舟発大垣赴桑名	頼山陽	蘇水遥遥海に	ふ	ら	日本	48			
40	雑詩	王維	客故郷より来た	さ	お	中国		121		
41	壇浦夜泊	木下犀潭	蓬窓月落ちて	た	き	日本		58		
42	半夜	良寛	首を回らせば五	は	り	日本	46			
43	将東遊題壁	釈月性	男児志を立てて	ま	し	日本	73			
44	夜下墨水	服部南郭	金龍山畔江月	よ	は	日本	39			
45	山行	杜牧	遠く寒山にのぼ	さ	と	中国	139			
46	逸題	橋本左内	飛雨簫簫孤雁	い	は	日本			122	
47	夢親	細井平州	芳草萋萋として	お	ほ	日本	41			
48	貧交行	杜甫	手を翻せば雲と	ひ	と	中国			204	
49	芳野	河野鉄兜	山禽叫断夜寥寥	よ	こ	日本	78			
50	寒梅	新島襄	庭上の一寒梅	か	に	日本	90			○
51	銷夏詩	袁枚	衣冠をつけざる	し	え	中国		175		
52	春風	白居易	一枝まずひらく	し	は	中国		147		
53	従軍行	乾隆帝	三辺の烽火軍營	し	け	中国		176		
54	舟中閨子規	城野静軒	八幡山崎春暮れ	し	き	日本	61			○
55	楠公墓前作	吉田松陰	道のため義の為	な	よ	日本			113	☆☆
56	対酒	白居易	蝸牛角上何事を	さ	は	中国	133			
57	落花	徳富蘇峰	蝶は舞い蜂は歌	ら	と	日本		88		
58	宴城東荘	崔敏童	一年始めて一年	し	さ	中国		118		
59	梅花	王安石	牆角数枝の梅	は	お	中国		163		
60	漫述	佐久間象山	誇るものは汝の	ま	さ	日本	71			
61	峨眉 山月歌	李白	峨眉 山月半輪の	か	り	中国	120			

# 緑崇流吟道緑水吟詠会 テキスト 目次

吟剣青一 吟剣幼少

作譜者 宗家 箕輪緑崇

府一決=府連一部決勝

愛連吟題★

竹外=藤井竹外大会

課題詩の期限=H29~R2有効

吟剣詩舞振興会アクセント漢詩集(ハ'シ')  
○=1部.  
☆=2部

ページ	吟題	作者	起句	吟題呼び	作者呼び	作者	絶句編	続絶句編	律詩古詩編	府連吟題
62	飲某楼	伊藤博文	豪気堂々大空に	ほ	い	日本		78		
63	西宮秋怨	王昌齡	芙蓉も及ばず	せ	お	中国		123		
64	山亭夏日	高駢	緑樹陰濃やかに	さ	こ	中国		156		
65	寄題豊公旧宅	荻生徂徠	海を絶るの(ワ)外	ほ	お	日本	36			
66	詠富士山	柴野栗山	誰か東海の水を	ふ	し	日本			41	
67	春簾雨窓	頼鴨涯	春はおのずから	し	ら	日本	77			
68	佳賓好主	佐藤一斎	月は梅花を訪て	か	さ	日本		44		
69	香炉峰下新补山居草堂初成偶題東壁	白居易	日高くねむり足って猶	こ	は	中国			238	
70	山ノ夜	嵯峨天皇	居を移して今夜	や	さ	日本	24			
71	武野晴月	林羅山	武陵の秋色	ふ	は	日本	32			
72	詠楠公	藤田東湖	大廈誰か知らん	な	ふ	日本			なし	
73	泛海	王守仁	陰夷もと胸中に	う	お	中国	155			
74	九段之桜	本宮三香	至誠烈烈乾坤を	く	も	日本		99		○
75	山中月	蕪孤山	驚き見る東山	さ	や	日本		34		
76	絶句(両箇の)	杜甫	両箇の黄り翠柳	せ	と	中国		138		
77	偶成	大鳥圭介	水陸三千共に兵	く	お	日本		63		
78	閨怨	王昌齡	閨中の少婦愁を	け	お	中国		124		
79	阿蘇山	安達漢城	巍峨たる蘇嶽	あ	あ	日本		91		
80	山房春事	岑参	梁園日暮飛鴉	さ	し	中国		142		
81	寄家兄言志	広瀬武夫	勤王の大義	か	ひ	日本	98			○
82	爾靈山	乃木希典	爾靈山は陰なれ	に	の	日本		81		
83	過零丁洋	文天祥	辛苦遭逢一経	れ	ふ	中国			268	
84	遊芳野	菅茶山	一目千株花尽く	よ	か	日本		38		
85	早発白帝城	李白	朝に辞す白帝	つ	り	中国	119			
86	江南春	杜牧	千里鶯啼いて	こ	と	中国	138			○
87	海南行	細川頼之	人生五十功無き	か	ほ	日本	28			
88	松島	岩溪蒙川	水寺茫茫日暮の	ま	い	日本	93			
89	芙蓉楼送辛漸	王昌齡	寒雨江に連なっ	ふ	お	中国	113			
90	西南役陣中作	佐々友房	雨は戦袍を撲ち	せ	さ	日本		84		
91	問梅閣	高啓	春に問う何れの	も	こ	中国		172		
92	獄中作	橋本左内	二十六年夢の如	こ	は	日本		69		○
93	客中作	李白	蘭陵の美酒鬱金	か	り	中国		129		
94	春日還家	正岡子規	車に乗り馬に騎	し	ま	日本		95		
95	菊花	白居易	一夜新霜瓦に著	き	は	中国	134			
96	望海	藤井竹外	鵬際晴れ開く	う	ふ	日本		59		
97	感事	于漬	花開けば蝶枝に	こ	う	中国	146			○
98	近江八景	大江敬香	堅田の落雁比良	お	お	日本			139	府一決
99	題客舎壁	雲井龍雄	斯の志を成さん	か	く	日本		80		
100	江樓書感	趙瑕	独り江樓に上れ	こ	ち	中国		155		
101	平野国臣	松口月城	維新の人物効	ひ	ま	日本			なし	☆☆
102	独座敬亭山	李白	衆鳥高く飛び尽	ひ	り	中国		130		
103	江上船	嵯峨天皇	一道の長江千里	こ	さ	日本		26		
104	題焦心録後	高杉晋作	内憂外患吾が洲	し	た	日本		75		
105	修学	夢窓疎石	一日の学問千載	し	む	日本		109		
106	偶感	西郷南洲	幾たびか辛酸を	く	さ	日本	80			
107	越中覽古	李白	越王勾踐呉を破	え	り	中国		134		
108	磯浜登望洋楼	三島中州	夜登る百尺海湾	い	み	日本		66		
109	鍾山即事	王安石	澗水声なく竹を	し	お	中国	147			
110	山行示同志	草場佩川	路は羊腸に入っ	さ	く	日本	50			
111	泊秦淮	杜牧	煙は寒水を籠め	し	と	中国	142			
112	桂林莊雜詠示諸生(1)	広瀬淡窓	いうことをやめ	け	ひ	日本	51			
113	偶成	朱熹	少年老い易く学	く	し	中国	153			
114	寒夜即事	寂室元光	風は寒林をみだ	か	し	日本	26			
115	有感	山崎闇斎	坐ろに憶う天公	か	や	日本	34			
116	後夜聞仏法僧鳥	空海	閑林独坐す草堂	こ	く	日本	23			
117	尋胡隱君	高啓	水を渡りまた水	こ	こ	中国	154			
118	獄中作	武市半平太	花は清香によっ	こ	た	日本		68		
119	己亥歳	曹松	澤国の江山戦図	き	そ	中国		159		
120	春望	杜甫	国破れて山河	し	と	中国			205	府一決
121	村夜	白居易	霜草蒼蒼として	そ	は	中国		148		
122	登筑波山絶頂	安積良斎	突兀たる奇峰	つ	あ	日本		56		

# 緑崇流吟道緑水吟詠会 テキスト 目次

吟剣青一 吟剣幼少

作譜者 宗家 箕輪緑崇

府一決=府連一部決勝

愛連吟題★

竹外=藤井竹外大会

課題詩の期限=H29~R2有効

吟剣詩舞振興会アクセント漢詩集(ハ'シ')  
○=1部.  
☆=2部

ページ	吟題	作者	起句	吟題呼び	作者呼び	作者	絶句編	続絶句編	律詩古詩編	府連吟題
123	祝賀詞	河野天籟	四海波平らかに	し	こ	日本			149	
124	桂林荘雑詠示諸生(3)	広瀬淡窓	幾人か笈を負お	け	ひ	日本		50		
125	雪梅	方岳	梅有り雪なけれ	せ	ほ	中国		170		
126	磯原客舎	吉田松陰	海楼酒を把って	い	よ	日本			117	☆☆
127	奥羽道中	榎本武陽	鮮血痕を留む	お	え	日本		74		
128	涼州詞	王之涣	黄河遠く上る	り	お	中国	109			
129	秋思	張籍	洛陽城裏秋風を	し	ち	中国		146		
130	雨後登楼	釈絶海	一天の過雨新秋	う	し	日本	29			
131	両英雄	徳富蘇峰	堂々たる錦旆関	り	と	日本		89		
132	春夜洛城聞笛	李白	誰が家の玉笛か	し	り	中国	118			○
133	詠楠公	日柳燕石	日本に聖人あり	な	く	日本		111		
134	従軍行	王昌齡	秦時の明月漢時	し	お	中国	114			
135	春日山懐古	大槻磐溪	春日山頭晚霞に	か	お	日本	62			
136	中庸	元田東野	勇力の男児は	ち	も	日本	75			
137	江畔独歩尋花	杜甫	黄四娘(じょう)の	こ	と	中国		139		
138	舟過八島	正岡子規	万里吹き来る	ふ	ま	日本		96		
139	応制天橋立	釈希世	碧海の中央六里	お	し	日本		29		
140	望天門山	李白	天門中斷して楚	て	り	中国		133		
141	一谷懐古	梁川星巖	二十余春夢一空	い	や	日本			74	
142	奉母遊嵐山	頼山陽	嵐山に到らざる	は	ら	日本		49		
143	中秋望月	王建	中庭地白く	ち	お	中国		150		
144	失題	古荘嘉門	才子元来多く	し	ふ	日本		77		
145	山中問答	李白	余に問う何の	さ	り	中国		135		
146	書懐	西郷南洲	一葦わずかに西	し	さ	日本			105	
147	母	松口月城	非行の少年獄舎	は	ま	日本			なし	☆☆
148	獨柳	杜牧	煙を含む一株の	と	と	中国	140			
149	芳野懐古	藤井竹外	古陵の松柏天颯	よ	ふ	日本	68			
150	稲叢懐古	太宰春台	沙江南望すれば	い	だ	日本	38			
151	松島	釈南山	天下山水あり	ま	し	日本		40		
152	清明	杜牧	清明の時節雨	せ	と	中国		153		
153	閨子規	正岡子規	一声孤月のもと	し	ま	日本		94		
154	重宿楓橋	張継	白髪重ねて来た	か	ち	中国		145		
155	書懐	篠原国幹	雨有り烟有り又	し	し	日本		72		
156	桂林荘雑詠示諸生(2)	広瀬淡窓	遥かに思う白髪	け	ひ	日本	52			
157	春日偶成	夏目漱石	いくなかれ風塵	し	な	日本	97			
158	辞世	吉田松陰	吾今国ために	し	よ	日本	82			
159	鹿兒島客中作	亀井南冥	誰が家の紫竹か	か	か	日本		36		
160	言志	藤田東湖	俯しては郷国を	こ	ふ	日本	65			
161	夏日題悟空上人院詩	杜荀鶴	三伏門を閉じて	か	と	中国		160		
162	山中月	真山民	我は愛す山中の	さ	し	中国			266	☆☆
163	偶成	新島襄	山を看れば高き	く	に	日本		79		
164	長城	汪遵	秦長城を築いて	ち	お	中国		157		
165	桂林荘雑詠示諸生(4)	広瀬淡窓	長鉞帰りなん	け	ひ	日本		51		
166	中秋月	蘇軾	暮雲収まり尽し	ち	そ	中国		166		
167	出郷作	佐野竹之助	決然国を去って	し	さ	日本	88			○
168	早発深川	平野金華	月落ち人煙曙色	つ	ひ	日本		32		
169	桜花詞	作者不詳	薄命能く伸ぶ	お	さ	日本			161	府一決
170	月夜三叉口泛舟	高野蘭亭	三叉中斷す	け	た	日本	40			
171	贈汪倫	李白	李白舟に乗って	お	り	中国	116			○
172	清平調詞(その一)	李白	雲には衣裳を想	せ	り	中国		126		
173	絵島	菅茶山	山陽の諸島列し	え	か	日本		37		
174	冬夜讀書	菅茶山	雪は山堂を擁し	と	か	日本	44			
175	蘇台覽古	李白	旧苑荒台揚柳	そ	り	中国	122			
176	大阪城	松口月城	豊公築くところ	お	ま	日本			なし	
177	金谷園	杜牧	繁華の事散じて	き	と	中国	143			
178	夜坐	藤田東湖	金風颯颯群陰を	や	ふ	日本	66			
179	與諸生見月	中江藤樹	清風座に満ちて	し	な	日本		30		
180	除夜作	高適	旅館の寒燈独り	し	こ	中国	125			
181	九月十三夜陣中作	上杉謙信	霜は軍營に満ち	く	う	日本	31			○
182	秋思	劉琨錫	古より秋に逢う	し	り	中国	132			
183	望立山	国分青崖	夢に名山を見る	た	こ	日本	95			

# 緑崇流吟道緑水吟詠会 テキスト 目次

吟剣青一 吟剣幼少

作譜者 宗家 箕輪緑崇

府一決=府連一部決勝

愛連吟題★

竹外=藤井竹外大会

課題詩の期限=H29~R2有効

吟剣詩舞振興会アクセント漢詩集(ハニシ) ○=1部.  
★=2部

ページ	吟題	作者	起句	吟題呼び	作者呼び	作者	絶句編	続絶句編	律詩古詩編	府連吟題
184	春夜	蘇軾	春宵一刻値千金	し	そ	中国	149			
185	大楠公	徳川景山	豹は死して皮を	た	と	日本	60			○
186	遊嵐山	頼山陽	清溪一曲水迢迢	ら	ら	日本		46		
187	題児島高德書桜樹図	斎藤監物	踏み破る千山	こ	さ	日本			91	☆☆
188	題楠公訣子図	頼山陽	海甸の陰風草木	な	ら	日本	49			○
189	青葉之笛	松口月城	一の谷の軍営	あ	ま	日本		103		
190	花朝下瀬江	藤井竹外	桃花水暖かにし	か	ふ	日本	69			
191	静夜思	李白	牀前月光を見る	せ	り	中国	117			
192	兵児謡	末松青萍	勝てば是官負く	へ	す	日本			135	
193	黄鶴楼	崔顥	昔人已に黄鶴に	こ	さ	中国			185	
194	示諸生	安積良斎	君を戒む見るな	し	あ	日本			78	
195	登高	杜甫	風急に天高こう	と	と	中国			213	
196	筑前城下作	広瀬淡窓	伏敵門前浪天を	ち	ひ	日本			72	
197	逸題	西郷南洲	虎を養わず豺を	い	さ	日本			なし	☆☆
198	山間秋夜	真山民	夜色秋光共に一	さ	し	中国	148			
199	社友小集	福沢諭吉	光陰矢の如し	し	ふ	日本		70		
200	題岩崎谷洞	西郷南洲	百戦功無し半歳	い	さ	日本	なし			
201	憫農	李紳	禾を鋤いて日	の	り	中国		151		
202	飲湖上	蘇軾	水光激灑として	こ	そ	中国		165		
203	和歌「白鳥は」	若山牧水	白鳥はかなしか	し	わ	日本	なし			
204	遊三樹酒亭	菊地溪琴	烟濃やかに山	さ	き	日本	57			
205	和歌「敷島の」	本居宣長	敷島の犬和心を	し	も	日本	なし			
206	京都東山	徳富蘇峰	三十六峰雲漠漠	き	と	日本	96			
207	金州城下作	乃木希典	山川草木転た荒	き	の	日本	91			
208	大楠公	河野天籟	赤坂の城千窟の	た	こ	日本			151	府一決
209	平泉懐古	大槻盤溪	三世の豪華帝京	ひ	お	日本	63			
210	城山	西道僊	孤軍奮闘圍を破	し	に	日本	86			
211	題常盤抱孤圖	梁川星巖	雪は笠檐に灑い	と	や	日本	54			
212	金剛山	山岡鉄舟	一片の赤心報国	こ	や	日本		73		
213	訣別	梅田雲浜	妻は病牀に臥し	け	う	日本	72			
214	秋浦歌	李白	白髪三千丈	し	り	中国	123			
215	秋思詩	菅原道真	丞相年を度って	し	す	日本			25	府一決
216	獄中作	高杉晋作	夜深く人定まつ	こ	た	日本	89			
217	逸題	篠原国幹	馬を緑江に	い	し	日本	85			
218	過桶狭間	大田錦城	荒原古を弔う	お	お	日本		42		
219	望湖楼醉書	蘇軾	黒雲墨を翻して	ほ	そ	中国	150			
220	百忍詩	中江藤樹	一たび忍べば	ひ	な	日本		110		
221	赤馬関舟中作	伊形霊雨	長風浪を破って	あ	い	日本	42			
222	出塞行	王昌齡	白草原頭京師を	し	お	中国	115			
223	時憩	良寛	薪を担うて翠岑	と	り	日本	45			
224	過藤樹書院	伊藤東涯	江西の書院名を	と	い	日本	37			
225	秋思	許渾	琪樹の西風沈簾	し	き	中国	137			
226	遊櫻祠	広瀬旭荘	花開けば萬人	お	ひ	日本	67			
227	雲	大窪詩佛	霧に似煙に似	く	お	日本		43		
228	過壇浦	村上佛山	魚荘蟹舎雨煙と	た	む	日本	70			
229	登鶴鶴楼	王之涣	白日山に依って	か	お	中国	108			○
230	水戸八景	徳川景山	雪時嘗て賞す仙	み	と	日本			82	
231	折楊柳	楊巨源	水邊の楊柳緑烟	せ	よ	中国	129			
232	九月十日	菅原道真	去年の今夜清涼	く	す	日本	25			
233	遊洞庭湖	李白	洞庭西に望めば	と	り	中国		132		
234	亡友月照十七回忌辰作	西郷南洲	相約して淵に投	ほ	さ	日本	81			
235	本能寺	頼山陽	本能寺溝は幾尺	ほ	ら	日本			58	府一決
236	春暁	孟浩然	春眠暁を覚えず	し	も	中国	110			
237	金縷衣	杜秋娘	君に勸む惜しむ	き	と	中国	144			
238	秋日偶成	程顥	閑来事として	し	て	中国			254	
239	春暁	日柳燕石	花氣山に満ちて	し	く	日本	74			
240	挽乃木將軍	杉浦重剛	赤城の熱血餘瀝	の	す	日本	94			
241	對花懷旧	釈義堂	紛紛たる世事	は	し	日本	27			
242	磧中作	岑参	馬を走らせて	せ	し	中国	127			
243	坂本龍馬	松口月城	勤王の大義吾身	さ	ま	日本			163	
244	思坂本龍馬	河野天籟	幕雲日を掩おて	さ	こ	日本		98		

# 緑崇流吟道緑水吟詠会 テキスト 目次

吟剣青一 吟剣幼少

作譜者 宗家 箕輪緑崇

府一決=府連一部決勝

愛連吟題★

竹外=藤井竹外大会

課題詩の期限=H29~R2有効

吟剣詩舞振興会アクセント漢詩集(ハ・シ)  
○=1部.  
☆=2部

ページ	吟題	作者	起句	吟題呼び	作者呼び	作者	絶句編	続絶句編	律詩古詩編	府連吟題
245	自遣	李白	酒に対して眼を	み	り	中国		131		
246	宿生田	菅茶山	千歳恩讐両つ	い	か	日本	43			
247	金陵関	韋荘	江雨霏霏として	き	い	中国	145			
248	偶成	木戸孝允	才子は才を待み	く	き	日本	84			
249	清平調詞(その二)	李白	一枝の濃艶露香	せ	り	中国		127		
250	哀悼詞	本宮三香	百歳の人生	あ	も	日本		100		
251	熊本城	原雨城	蘇岳を東に望み	く	は	日本		101		
252	惜春詞	小野湖山	芳事茫茫誰にか	せ	お	日本			89	
253	詠日本刀	徳川光圀	蒼龍猶未だ雲霄	に	と	日本	35			
254	竹里館	王維	独り坐す幽篁の	ち	お	中国	112			
255	曲江	杜甫	朝より回って	き	と	中国			207	☆☆
256	逸題	山内容堂	風は妖雲を捲い	い	や	日本	79			
257	自訟	杉浦重剛	嶽に登って天下	し	す	日本		85		
258	小田原懐古	作者不詳	聞くならく北条	お	さ	日本			なし	
259	渡桑乾	賈島	客舎并州己に	そ	か	中国	136			
260	彦山	広瀬淡窓	彦山高き処	ひ	ひ	日本		54		
261	述懐	頼山陽	十有三春秋	し	ら	日本			51	
262	偶成	松平春嶽	眼に見る年年	く	ま	日本		67		
263	月夜歩禁垣外	柴野栗山	上苑の西風桂香	け	し	日本		35		
264	宵山歌	頼山陽	宵山きのう我を	か	ら	日本			64	
265	道歌「親思う」	吉田松陰	親思う心に	お	よ	日本	なし			
266	示児	陸游	死去元知る萬事	し	り	中国	152			
267	道歌「明日ありと」	作者不詳	明日ありと思う	あ	さ	日本	なし			
268	絶命詞	黒澤忠三郎	狂と呼び賊と	せ	く	日本		76		
269	月夜聞荒城曲	水野豊州	栄枯盛衰は一場	け	み	日本			157	府一決
270	短歌「たわむれに」	石川啄木	たわむれに母を	た	い	日本	なし			
271	法庫門堂中作	乃木希典	東西南北幾山河	ほ	の	日本		82		
272	偶成	横井小楠	東海の波濤	く	よ	日本		62		
273	醉下祝融峰	朱熹	我来たつて萬里	よ	し	中国		169		
274	和子由瀧池懐旧	蘇軾	人生到るところ	し	そ	中国			256	
275	述懐	雲井龍雄	生きては生を	し	く	日本			なし	☆☆
276	尋春花	菅三品	五嶺蒼蒼として	は	か	日本		27		
277	無題	阿倍仲麻呂	義を慕う名空し	む	あ	日本		25		
278	春初書感	安積良斎	野梅溪柳心と	し	あ	日本	55			
279	結婚式	安達漢城	借老ちかい成っ	け	あ	日本		92		
280	長安春望	盧綸	東風雨を吹いて	ち	ろ	中国			222	
281	聞白樂天左降江洲司馬	元稹	殘燈焰無くして	は	け	中国	135			
282	夜上受降城聞笛	李益	回樂峯前沙雪に	よ	り	中国	130			
283	泊天草洋	頼山陽	雲か山か呉か越	あ	ら	日本			62	
284	道歌「語るなど」	作者不詳	語るなど			日本	なし			
285	道歌「徒(いたづら)に	作者不詳	いたづらに			日本	なし			
286	静御前	頼山陽	工藤の銅拍秩父	し	ら	日本			53	
287	墨水秋夕	安積良斎	霜落ちて滄江	ほ	あ	日本			76	
288	題慈恩塔	荊叔	漢国山河あり	し	け	中国		158		
289	烏衣巷	劉琨錫	朱雀橋邊野草花	う	り	中国	131			
290	容奇	新井白石	曾つて瓊銖を下	ゆ	あ	日本			35	
291	隈川雑詠(その一)	広瀬淡窓	亀山は宛として	く	ひ	日本		52		
292	隈川雑詠(その二)	広瀬淡窓	観音閣上晚雲帰	く	ひ	日本		53		
293	詠小楠公母	本宮三香	南朝の烈婦姓は	し	も	日本			155	☆☆
294	述懐	蒲生君平	丈夫生れて四方	し	が	日本			49	府一決
295	書観感有	朱熹	昨夜江邊春水生	し	し	中国		168		
296	松竹梅	松口月城	壽福愈開く松竹	し	ま	日本		104		
297	花月吟	藤野君山	花屋琴を弾ず	か	ふ	日本			141	
298	題不識庵擊機山関	頼山陽	鞭聲肅肅夜河を	ふ	ら	日本	47			
299	阿嵯嶺	頼山陽	危礁亂立す大濤	あ	ら	日本		48		
300	題岩崎谷洞	西郷南洲	百戦功なし半歳	い	さ	日本	なし			
301	曉発	月田蒙斎	残月の滴露人の	あ	つ	日本		60		
302	咸陽城の東樓	許渾	一たび高城に	か	き	中国			250	
303	垓下の歌	項籍	力山を抜き氣世	か	こ	中国			167	
304	埃及懐古	塩谷節山	三角陵は荒れて	え	し	日本	99			
305	富士山	石川丈山	仙客来たり遊ぶ	ふ	い	日本	33			

# 緑崇流吟道緑水吟詠会 テキスト 目次

吟剣青一 吟剣幼少

作譜者 宗家 箕輪緑崇

府一決=府連一部決勝

愛連吟題★

竹外=藤井竹外大会

課題詩の期限=H29~R2有効

吟剣詩舞振興会アクセント漢詩集(ハ'シ')  
○=1部.  
☆=2部

ページ	吟題	作者	起句	吟題呼び	作者呼び	作者	絶句編	続絶句編	律詩古詩編	府連吟題
306	和歌「晴れてよし他」					日本	なし			
307	自画に題す	夏目漱石	幽居人到らず	し	な	日本		97		
308	将に小梅に徙らんと	藤田東湖	青年この地嘗て	ま	ふ	日本	なし			
309	道歌「堪忍は」	作者不詳	堪忍は必ず人の	か	さ	日本	なし			
310	道歌「気もつかず」	作者不詳	気もつかず目に	き	さ	日本	なし			
311	草	白居易	離離たり原上の	く	は	中国			228	
312	名古屋城	松口月城	金鱗燦爛高臺に	な	ま	日本		105		
313	鹿柴	王維	空山人を見ず	ろ	お	中国		122		
314	春日山荘	有智子内親王	寂寂たる幽荘	し	う	日本			23	
315	庚寅歳晩雑詩	鈴木豹軒	老後の文章	こ	す	日本	100			
316	石槌山	海量法師	遠遊千里天涯を	い	か	日本		33		
317	蜀相	杜甫	丞相の祠堂何れ	し	と	中国			209	
318	辺詞	張敬忠	五原の春色旧来	へ	ち	中国		116		
319	新涼書を読む	菊池三溪	秋は動く梧桐	し	き	日本	76			
320	幽居即事	石川文山	山氣人世に殊な	ゆ	い	日本			31	
321	無題	夏目漱石	眞蹤寂寞杳とし	む	な	日本			143	
322	太平洋上作有り	安達漢城	日は浪より昇っ	た	あ	日本		90		
323	蜀中九日	王勃	九月九日望郷台	し	お	中国	104			
324	琵琶湖上の作	室鳩巢	琵琶湖上水空に	ひ	む	日本			37	
325	暑を山園に避く	王世貞	残杯移し傍う	し	お	中国		174		
326	建徳江に宿る	孟浩然	舟を移して煙渚	け	も	中国	なし			
327	一乗寺に遊ぶ	伊藤仁斎	秋色蒼茫翠微に	い	い	日本			33	
328	伯夷叔斉を詠ず	山田方谷	商をきるの計	は	や	日本	なし			
329	春怨(其一)	劉方平	紗窓日落ちて	し	り	中国	なし			
330	赤馬が関懐古	菅茶山	蟹雨茫茫たり	あ	か	日本			43	
331	京に入る使に逢う	岑参	故園東に望めば	け	し	中国		141		
332	凱旋	乃木希典	王師百萬驕虜を	か	の	日本		83		
333	岳陽樓に登る	杜甫	昔聞く洞庭の水	が	と	中国			215	
334	甲斐の客中	荻生徂徠	甲陽の美酒 緑	か	お	日本		31		
335	清平調詞(その三)	李白	名花傾国両つな	せ	り	中国		128		
336	失題	勝海舟	多年の蹤跡埃塵	し	か	日本			95	
337	劍門の道中にて微雨に	陸游	衣上の征塵酒痕	け	り	中国	151			
338	鮫島生の東行を送る	横井小楠	五尺の短身一竹	さ	よ	日本		61		
339	酒を酌んで裴迪に豫う	王維	酒を酌んで君に	さ	お	中国			189	
340	濃州の僧に寄す	武田信玄	気は似たり岐陽	の	た	日本	なし			
341	風林火山	孫子	其の疾きこと風	ふ	そ	中国	なし			
342	天意を識る	西郷南洲	一貫す唯々の諾	て	さ	日本			111	
343	芳野に遊ぶ	頼杏坪	満人酔を買うて	よ	ら	日本		39		
344	江雪	柳宗元	千山鳥飛ぶこと	こ	り	中国		149		
345	邨山	沈佺期	北邨山上墳塋を	ほ	し	中国	105			
346	芳野懐古	梁川星巖	今来古往事茫茫	よ	や	日本	53			
347	郷に回って偶書す	賀知章	少小家を離れ	き	か	中国		117		
348	梅花	王安石	牆角数枝の梅	は	お	中国		163		
349	松山城	小原六六庵	海南に割拠して	ま	お	日本		107		
350	恵崇(すう)の春江晚景	蘇軾	竹外の桃花三両	え	そ	中国	なし			
351	日出	伊藤博文	日は出ず扶桑	に	い	日本	なし			
352	短歌「浮世とは」	伊藤博文	浮世とは誰が名	う	い	日本	なし			
353	春夜雨を喜ぶ	杜甫	好雨時節を知り	し	と	中国			なし	
354	四十七士を詠ず	坂井虎山	若し茲の事無か	し	さ	日本			80	
355	志士平野国臣	松口月城	維新の人物外	し	ま	日本			なし	☆☆
356	月に対して感有り	王守仁	山は近く月は	つ	お	中国		112		
357	時事偶感	杉浦重剛	昨は非とし今は	じ	す	日本		86		
358	吟心	松口月城	精神を傾注すれ	ぎ	ま	日本	なし			
359	山中諸生に示す(五)	王守仁	溪辺流水に坐す	さ	お	日本		173		
360	太平洋上作有り(322)	安達漢城	日は浪より昇っ	た	あ	日本		90		
361	蜀中九日(323)	王勃	九月九日望郷台	し	お	中国	104			
362	金陵の鳳凰台に登る	李白	鳳凰台上鳳凰遊	き	り	中国			196	
363	初夢	本宮三香	波静かに龜遊ぶ	は	も	日本	なし			
364	和歌「さし出づる」	本居宣長	さし出づるこの	さ	も	日本	なし			
365	無題	阿倍仲麻呂	義を慕う名空し	む	あ	日本		25		
366	晁卿衡を哭す	李白	日本の晁卿帝都	ち	り	中国	なし			

# 緑崇流吟道緑水吟詠会 テキスト 目次

吟剣青一 吟剣幼少

作譜者 宗家 箕輪緑崇

府一決=府連一部決勝

愛連吟題★

竹外=藤井竹外大会

課題詩の期限=H29~R2有効

吟剣詩舞振興会アクセント漢詩集(ハ'シ')  
○=1部.  
☆=2部

ページ	吟題	作者	起句	吟題呼び	作者呼び	作者	絶句編	続絶句編	律詩古詩編	府連吟題
367	秋日友人に別る	巨勢識人	林葉翩翩として	し	こ	日本	なし			
368	鏡に照らして白髪を見る	張九齡	宿昔青雲の志	か	ち	中国	106			
369	文友に留別す	小野岑守	一朝吏に従いて	ふ	お	日本	なし			
370	九月九日山東の兄弟を憶う	王維	獨り異郷に在って	く	お	中国		120		
371	旅夜懷を書す	杜甫	細草微風の岸	り	と	中国			211	
372	山の夜	嵯峨天皇	居を移して今夜	や	さ	日本	24			
373	赤壁	杜牧	折戟沙に沈んで	せ	と	中国	なし			
374	門を出でず	菅原道真	一たび謫落せられ	も	す	日本			27	
375	平泉懷古	大槻磐溪	三世の豪華帝京	ひ	お	日本	63			
376	酒に対す(その一)	白居易	巧拙賢愚相是非	さ	は	中国	なし			
377	和歌「夜をこめて」	清少納言	夜をこめて鳥の	よ	せ	日本	なし			
378	初夏即事	王安石	石梁茅屋湾碕有	し	お	中国		164		
379	九月十三夜月を翫ぶ	藤原忠道	閑窓寂寂日に相	く	ふ	日本	なし			
380	春流	北條時頼	春流岸よりも	し	ほ	日本		28		
381	歡学文	朱熹	謂うこと勿かれ	か	し	中国	なし			
382	楠公の図に題す	西郷南洲	奇策明籌謀るべ	な	さ	日本	なし			
383	雪梅	方岳	梅あり雪なけれ	せ	ほ	中国	なし			
384	雨中花に対す	釈義堂	三年なさず	う	し	日本	なし			
385	揚子江	文天祥	幾日か風にした	よ	ふ	中国	なし			
386	仏の成道	釈一休	天上と人間に	ほ	し	日本	なし			
387	東城	趙孟頫	野店の桃花紅粉	と	ち	中国	なし			
388	新正口号	武田信玄	淑気未だ融せず	し	た	日本	30			
389	懐懐の歌	劉基	白鷄雛を養なう	お	り	中国	なし			
390	九月十三夜陣中作	上杉謙信	霜は軍當に満ち	く	う	日本	31			○
391	涼夜	高啓	一声の遠笛数声	り	こ	中国	なし			
392	織女惜別	直江兼統	二星何ぞ恨まん	し	な	日本	なし			
393	京師にて家書を得たり	袁凱	江水三千里	け	え	中国		171		
394	醉余口号	伊達政宗	馬上少年過ぐ	す	た	日本	なし			
395	睡起偶成	王守仁	四十余年睡夢の	す	お	中国	なし			
396	羈旅の春に逢う	中江藤樹	羈旅春に逢うて	き	な	日本	なし			
397	中元の夜枕上にて憶う	袁宏道	秋拆沈沈として	ち	え	中国	なし			
398	偶作	新井白石	緑綺の琴緑水の	く	あ	日本	なし			
399	臨清の大雪	吳偉業	白頭風雪長安に	り	こ	中国	なし			
400	静	頼山陽	雄風東より起っ	し	ら	日本	なし			
401	偶然の作	屈復	百金駿馬を買い	く	く	中国	なし			
402	吉田義卿を送る	佐久間象山	環海何ぞ茫茫た	よ	さ	日本	なし			
403	馬上偶成	高杉晋作	険に臨み危きに	は	た	日本	なし			
404	酔後口占	張問陶	錦衣玉帯雪中に	す	ち	中国	なし			
405	逸題	勝海舟	芙蓉碧旻に聳ゆ	い	か	日本	なし			
406	自ら小像に題す	魯迅	靈台神矢を逃る	み	ろ	中国	なし			
407	坂本龍馬	松口月城	勤王の大義吾身	さ	ま	日本			163	
408	花朝澱江を下る	藤井竹外	桃花水暖かにし	か	ふ	日本	69			
409	冬暁澱江の舟中	藤井竹外	兩岸に煙なく旭	と	ふ	日本	なし			
410	母を奉じて天保山に遊ぶ	藤井竹外	舷に倚り盞を洗	は	ふ	日本	なし			竹外
411	竹	藤井竹外	両三竿の竹小斎	た	ふ	日本	なし			竹外
412	八幡公	頼山陽	結髮軍に従うて	は	ら	日本		47		
413	桑乾を渡る	賈島	客舎并州己に	そ	か	中国	136			
414	秋思	劉兎錫	古より秋に逢う	し	り	中国	132			
415	元二の安西に使いする	王維	渭城の朝雨輕塵	け	お	中国	111			
416	近江八景	大江敬香	堅田の落雁比良	お	お	日本			139	府一決
417	河内路上	菊池溪琴	南朝の古木	か	き	日本	56			
418	和歌「銀(しろがね)も」	山上憶良	しろがねもくがねも	し	や	日本	なし			
419	涼州詞	王翰	葡萄の美酒夜光	り	お	中国	107			
420	青葉の笛	松口月城	一の谷の軍營	あ	ま	日本		103		
421	楠公詠史	藤田東湖	大廈誰か知らん	な	た	日本			なし	
422	月夜三叉口に舟を浮ぶ	高野蘭亭	三叉中断す大江	け	た	日本	40			
423	佳賓好主	佐藤一斎	月は梅花を訪て	か	さ	日本		44		
424	浅間馬子唄	松口月城	余韻伝え来る	あ	ま	日本	なし			
425	辞世	吉田松陰	吾今国の為に	し	よ	日本	82			
426	楓橋夜泊	張継	月落ち烏啼いて	ふ	ち	中国	128			
427	春日山懷古	大槻磐溪	春日山頭晚霞に	か	お	日本	62			

# 緑崇流吟道緑水吟詠会 テキスト 目次

吟剣青一 吟剣幼少

作譜者 宗家 箕輪緑崇

府一決=府連一部決勝

愛連吟題★

竹外=藤井竹外大会

課題詩の期限=H29~R2有効

吟剣詩舞振興会アクセント漢詩集(ハ'ジ) ○=1部.  
☆=2部

ページ	吟題	作者	起句	吟題呼び	作者呼び	作者	絶句編	続絶句編	律詩古詩編	府連吟題
428	山中の月	真山民	我は愛す山中の	さ	し	中国			266	☆☆
429	太田持資衰を借るの凶	藤井竹外	風雨田家に去っ	お	ふ	日本	なし			
430	籠鷺を聞く	藤井竹外	誰が家の籠裏か	ろ	ふ	日本	なし			
431	春寒の江上	藤井竹外	二月余寒臘月の	し	ふ	日本	なし			竹外
432	山陽先生浪速に遊ぶを	藤井竹外	離亭の酒は醒め	さ	ふ	日本	なし			竹外
433	問梅閣	高啓	春に問う何れの	も	こ	中国		172		
434	雁を聞く	韋応物	故園渺として	か	い	中国		144		
435	江南の春	杜牧	千里鶯啼いて	こ	と	中国	138			○
436	事に感ず	于漬	花開けば蝶枝に	こ	う	中国	146			○
437	舟八島を過ぐ	正岡子規	万里吹き来る	ふ	ま	日本		96		
438	銷夏の詩	袁枚	衣冠を著けざる	し	え	中国		175		
439	山行同志に示す	草場佩川	路は羊腸に入っ	さ	く	日本	50			
440	海南行	細川頼之	人生五十功無き	か	ほ	日本	28			
441	左遷至藍関示姪孫湘	韓愈	一封の朝に奏す	さ	か	中国			226	
442	偶成	朱熹	少年老い易く学	く	し	中国	153			
443	春風	白居易	一枝まずひらく	し	は	中国		147		
444	獄中の作	頼鴨涯	雲を排し手ずか	こ	ら	日本			97	
445	清平調詞(その1)	李白	雲には衣裳を想	せ	り	中国		126		
446	山間の秋夜	真山民	夜色秋光共に一	さ	し	中国	148			
447	竹を哭す	藤井竹外	惜む君が万琅玕	た	ふ	日本	なし			
448	星巖先生を墨水に訪う	藤井竹外	葉に似たる扁舟	せ	ふ	日本	なし			竹外
449	春雨魚を捕る	藤井竹外	細雨水に痕なく	し	ふ	日本	なし			竹外
450	道歌「世の中は」	作者不詳	世の中は心一つ	よ	さ	日本	なし			
451	絶句(江碧にして)	杜甫	江碧にして	せ	と	中国	126			
452	金州城下の作	乃木希典	山川草木転た荒	き	の	日本	91			
453	桃夭	作者不詳	桃の夭夭たる	と	さ	中国			古詩体	
454	侍宴	大友皇子	皇明日月と光	し	お	日本	なし			
455	無題	田中越山	国交途絶幾星霜	む	た	日本	なし			
456	長恨歌(部分 1/4)	白楽天	漢皇色を重んじ	ち	は	中国			なし	
457	長恨歌(部分 2/4)	白楽天	春寒くして浴を	ち	は	中国			なし	
458	長恨歌(部分 3/4)	白楽天	歡を承け宴に侍	ち	は	中国			なし	
459	長恨歌(部分 4/4)	白楽天	姉妹弟兄皆土に	ち	は	中国			なし	
460	山中問答	李白	余に問う何の意	さ	り	中国		135		
461	春暁	孟浩然	春眠暁を覚えず	し	も	中国	110			
462	春暁	大田南畝	夢は流鶯に悩ま	し	お	日本	なし			
463	幽州の臺に登る歌	陳子昂	前に古人を見ず	ゆ	ち	中国	なし			
464	半夜	良寛	頭を回ぐらせば	は	り	日本	46			
465	垓下の歌	項羽(項籍)	力山を抜き氣世	か	こ	中国			167	
466	夜雨北に寄する	李商隠	君は帰期を問う	や	り	中国	なし			
467	大風の歌	劉邦	大風起って雲飛	た	り	中国	なし			
468	秋思	張籍	洛陽城裏秋風を	し	ち	中国	なし			
469	歩出夏門行	曹操	神龜はいのち長	ほ	そ	中国			なし	
470	易水送別	駱賓王	此地燕丹に別る	え	ら	中国	103			
471	題不識庵擊機山図	頼山陽	鞭聲蕭蕭夜河を	ふ	ら	日本	47			
472	長征	毛沢東	紅軍は遠征の難	ち	毛	中国			なし	
473	数日来鶯檐前に鳴きて去らず此れを賦して鶯に贈る①	高杉晋作	一朝檐角残夢を	す	た	日本			なし	
474	数日来鶯檐前に鳴きて去らず此れを賦して鶯に贈る②	高杉晋作	故人吾を責めるに	す	た	日本			なし	
475	偶成	木戸孝允	才子は才を恃み	く	き	日本	84			
476	偶感	西郷隆盛南洲	幾たびか辛酸を	く	さ	日本	80			
477	無題	夏目漱石	眞蹤寂寞香として	む	な	日本			143	
478	山中にて幽人と対酌す	李白	尙人对酌山花開	さ	り	中国				
479	絶句	杜甫	遅日江山麗しく	せ	と	中国	なし			
480	独り敬亭山に坐す	李白	衆鳥高く飛び尽	ひ	り	中国		130		
481	貧交行	杜甫	手を翻せば雲と	ひ	と	中国			204	
482	酒に対して賀藍を想う(1)	李白	四明に狂客あり	さ	り	中国			なし	
483	春日李白を憶う	杜甫	白や詩に敵なし	し	と	中国			なし	
484	曲江	杜甫	朝より回って	き	と	中国			207	
485	路易二世	森鷗外	当年の向背群臣	る	も	日本	なし			
486	内(つま)に贈る	李白	三百六十日 日々	つ	り	中国	なし			
487	峨眉山月の歌	李白	峨眉半月半輪の	か	り	中国	120			
488	壯遊(部分)	杜甫	七齡にして即ち	そ	と	中国	なし			



# 緑崇流吟道緑水吟詠会 テキスト 目次

吟剣青一 吟剣幼少

作譜者 宗家 箕輪緑崇

府一決=府連一部決勝

愛連吟題★

竹外=藤井竹外大会

課題詩の期限=H29~R2有効

吟剣詩舞振興会アクセント漢詩集(ハ'シ')  
○=1部.  
☆=2部

ページ	吟題	作者	起句	吟題呼び	作者呼び	作者	絶句編	続絶句編	律詩古詩編	府連吟題
489	春夜洛城に笛を聞く	李白	誰が家の玉笛か	し	り	中国	118			○
490	除夜の作	高適	旅館の寒燈独り	じ	こ	中国	125			
491	友人を送る	李白	青山北郭に横た	ゆ	り	中国			なし	
492	爾靈山	乃木希典	爾靈山は陰なれ	に	の	日本		81		
493	自ら肖像に題す	新井白石	蒼顔は鐵の如く	み	あ	日本	なし			
494	嵐山に遊ぶ	頼山陽	春風雨を吹き	ら	ら	日本	なし			
495	偶成	伊達政宗	邪法邦を迷わし	ぐ	だ	日本	なし			
496	江夏にて宋之悌に別る	李白	楚水清きこと空	こ	り	中国			なし	
497	花の井	藤井竹外	花の井 井荒れて	は	ふ	日本	なし			竹外
498	界浦の舟中	藤井竹外	波戸風なく	か	ら	日本	なし			竹外
499	嵐山の春夕	藤井竹外	夕陽已に花間よ	ら	ふ	日本	なし			竹外
500	四明峰	藤井竹外	脚底の干峰あつ	し	ふ	日本	なし			竹外
501	春夜	蘇軾	春宵一刻値千金	し	そ	中国	149			
502	九月十日	菅原道真	去年の今夜侍清	く	す	日本	25			
503	月夜	杜甫	今夜鄜州の月	け	と	中国			なし	
504	山房春事	岑参	梁園日暮飛鴉	さ	し	中国		142		
505	豊公の旧宅に寄題す	荻生徂徠	海を絶るの(り)外	ほ	お	日本	36			
506	春望	杜甫	国破れて山河在	し	と	中国			205	府一決
507	山房春事 其一	岑参	風おだやかに	さ	し	中国		なし		
508	楊柳枝詞	劉禹錫	煬帝の行宮汴水	よ	り	中国		なし		
509	興を遣る吟	伊達政宗	馬上青年過ぐ	き	た	日本	なし			
510	江上の船	嵯峨天皇	一道の長江千里	こ	さ	日本		26		
511	偶作	武田信玄	麤殺す江南十万	く	た	日本	なし			
512	無題	寂室元光	風は飛泉を攪し	む	し	日本	なし			
513	足利義政に賜う	後花園天皇	殘民争い採る	あ	ご	日本	なし			
514	乱を避け舟を江州湖上に浮かぶ	足利義昭	江湖に落魄して	ら	あ	日本	なし			
515	寧楽(なら)懐古	太宰春台	南土茫茫たり	な	た	日本			39	
516	述懐	雲井龍雄	生きては生を	し	く	日本			なし	☆☆
517	逸題	西郷南洲	虎を養わず豺を	い	さ	日本			なし	☆☆
518	汪倫に贈る	李白	李白舟に乗って	お	り	中国	116			○
519	太田道灌	作者不詳	孤鞍雨を衝いて	お	さ	日本	64			○
520	櫻花の詞	作者不詳	薄命能く伸ぶ	お	さ	日本			161	府一決
521	家兄に寄せて志を言う	広瀬武夫	勤王の大義	か	ひ	日本	98			○
522	舟中子規を聞く	城野静軒	八幡山崎春暮れ	し	き	日本	61			○
523	九月十五夜	菅原道真	黄萎の顔色	く	す	日本			29	☆☆
524	出郷の作	佐野竹之助	決然国を去って	し	さ	日本	88			○
525	獄中の作	橋本左内	二十六年夢の如	こ	は	日本		525		○
526	児島高德	斎藤監物	踏み破る千山	こ	さ	日本			91	☆☆
527	楠公に訣るの図に題す	頼山陽	海甸の陰風草木	な	ら	日本	49			○
528	大楠公	徳川景山	豹は死して皮を	だ	と	日本	60			○
529	獄中感有り	西郷南洲	朝に恩遇を蒙り	た	さ	日本			109	☆☆
530	寒梅	新島襄	庭上の一寒梅	か	に	日本	90			○
531	九段の桜	本宮三香	至誠烈烈乾坤を	く	も	日本		99		○
532	母	松口月城	非行の少年獄舎	は	ま	日本			なし	☆☆
533	賊に逢ふ	良寛	禪版蒲団把り將	そ	り	日本	なし			
534	草庵雪夜の作	良寛	首を回らせば七	そ	り	日本	なし			
535	楠公墓前の作	吉田松陰	道のため義の為	な	よ	日本			113	☆☆
536	磯原客舎	吉田松陰	海樓酒を把って	い	よ	日本			117	☆☆
537	富士山	安積良斎	秦皇薬を採り	ふ	あ	日本	なし			
538	筑波山の絶頂に登る	安積良斎	突兀たる奇峰	つ	あ	日本		56		
539	鎌倉懐古	服部南郭	相中古を弔して	か	は	日本			なし	
540	紀事	梁川星巖	当年の乃祖	き	や	日本	なし			
541	史を読み感有り	草場佩川	治は蒼生を誤り	し	く	日本	なし			
542	月夜に梅花を見る	菅原道真	月耀いて晴雪の	げ	す	日本	なし			
543	四十七士	大塩平八郎	臥薪嘗膽幾辛酸	し	お	日本	なし			
544	竜盤	菅茶山	竜盤虎踞帝王都	り	か	日本			なし	
545	北濃に遊ぶ	頼山陽	奚囊勝を尋ぬ	ほ	ら	日本	なし			
546	阿部野	広瀬旭莊	興亡千古英雄を	あ	し	日本	なし			
547	失題	渋沢栄一	櫻花楊柳自から	し	し	日本	なし			
548	仁義村春遊(にんぎ)	菊池漢琴	香魂を返して	に	き	日本	なし			
549	川中島を望む	菊池漢琴	竜戦虎闘暫らく	か	き	日本			なし	
550	芳野懐古	野田笛浦	南山の往事夢の	よ	の	日本	なし			
551	澱江子文を送る	藤井竹外	十幅の帆開いて	で	ふ	日本	なし			
552	新緑	武田信玄	春去り夏来たる	し	た	日本	なし			

# 緑崇流吟道緑水吟詠会 テキスト 目次

吟剣青一 吟剣幼少

作譜者 宗家 箕輪緑崇

府一決=府連一部決勝

愛連吟題★

竹外=藤井竹外大会

課題詩の期限=H29~R2有効

吟剣詩舞振興会アクセント漢詩集(ハ・シ)  
○=1部.  
☆=2部

ページ	吟題	作者	起句	吟題呼び	作者呼び	作者	絶句編	続絶句編	律詩古詩編	府連吟題
553	旅館に杜鵑を聴く	武田信玄	空山の緑樹雨晴	り	た	日本	なし			
554	和歌「大君の」	月照	大君のためには	お	げ	日本	なし			
555	廬山の瀑布を望む	李白	日は香炉を照ら	ろ	り	中国		136		
556	月下独酌	李白	花間一壺の酒	け	り	中国			193	
557	兵庫常盤楼上の口占	伊藤博文	満座人の故人なら	ひ	い	日本	なし			
558	清国より帰朝して作有り	伊藤博文	粉を解くに干戈	し	い	日本	なし			
559	下田の開港を聞く	釈月性	七里の江山	し	し	日本	なし			
560	甲寅秋月偶作	釈月性	兵庫津頭是湊川	き	し	日本	なし			
561	飲酒	陶潜	廬を結んで人境	い	と	中国			168	
562	烏江亭に題す	杜牧	勝敗は兵家も事	う	と	中国	141			
563	春簾雨窓	頼鴨涯	春はおのずから	し	ら	日本	77			
564	春暁	菊池三溪	半規の落月望む	し	き	日本	なし			
565	残月杜鵑	菊池三溪	人は言う月に声	さ	き	日本	なし			
566	薔薇(其の一)	武田信玄	庭下に春を留め	は	た	日本	なし			
567	古寺に花を見る	武田信玄	紺藍處として	ふ	た	日本	なし			
568	山亭夏日	高駢	緑樹陰濃やかに	さ	こ	中国		156		
569	芳野	河野鉄兜	山禽叫断夜寥寥	よ	こ	日本	78			
570	母を憶う	頼山陽	秋風吾を吹いて	は	ら	日本	なし			
571	八陣の図	杜甫	功は蓋う三分国	は	と	中国		140		
572	小督の局	松口月城	月は清し嵯峨野	こ	ま	日本	なし			
573	清明	杜牧	清明の時節雨	せ	と	中国		153		
574	漢江	杜牧	溶溶漾漾として	か	と	中国		152		
575	山行	杜牧	遠く寒山にのぼ	さ	と	中国	139			
576	頼子成の訃音を聞く	梁川星巖	万事悠悠逝波に	ら	や	日本			なし	
577	黄鶴楼にて孟浩然の 広陵に之くを送る	李白	故人西のかた	こ	り	中国	121			
578	客中の作	李白	蘭陵の美酒鬱金	か	り	中国		129		
579	弘道館に梅花を賞す	徳川景山	弘道館中千樹の	こ	と	日本	59			
580	寒夜の即事	寂室元光	風は寒林を攪し	か	じ	日本	26			
581										
582										
583										
584										
585										
586										
587										
588										
589										
590										
591										
592										
593										
594										
595										
596										
597										
598										
599										
600										
601										
602										
603										
604										
605										
606										
607										
608										
609										
610										